

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100232		
法人名	社会福祉法人青葉福祉会		
事業所名	グループホーム はちまんの風 ひだまり		
所在地	宮城県仙台市青葉区八幡4丁目7-6		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・由緒ある大崎八幡宮と龍寶寺に隣接し、自然の中で四季の移ろいや地域行事を身近に楽しむことができる。また複合施設であるという利点をいかし、共に行事に参加し交流を持つことが出来ている。アットホームな雰囲気の中で生活して頂けている。

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年2月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大崎八幡神社と龍寶寺に隣接した、自然豊かで見晴らしのよい高台にある。「はちまんの風」は開設2年目で4階建ての2階にある。八幡高齢者複合施設として5事業所(通所介護・居宅介護支援・ヘルパーST・グループホーム・ケアハウス)があり、地域にとってなくてはならない役割を担っている。事業所理念として「わたし達は一人ひとりの生きてきた歴史に触れ、その人らしく暮らす事を大切に、たくさんの笑顔に出会えるように支援していきます。」を掲げ、利用者の思いを汲んだケアに努めている。「はちまんの風便り」の地域版を作成し、町内に配布、中学校の職場体験を受け入れ、地域との交流も行われている。利用者の看取りに関して、「看取り指針」の他に「ターミナルステージにおける症状」を詳細に文書化しており、職員の学習も重視している。職員の研修参加や資格取得に向けて業務保障するなど力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはちまんの風 ）「 ユニット名 ひだまり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は「尊厳と習慣を守る」となっている。その人を知るためには、生きてきた時代や地域の習慣など幅広く知ることであり、生活の中でできたりや行事を大切に生活の中に組み入れている。はちまんの風の独自の理念を作り実践につなげた。	「私たちは、一人ひとりの生きてきた歴史に触れ、その人らしく暮らす事を大切に、たくさんの笑顔に出会えるように支援していきます。」を事業所の理念に掲げ、職員はミーティングで確認している。利用者の思いや意向を尊重し、笑顔で接するように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設自体が、町内会の班となっており地域とのつながりを持っている。地域内の中学校からの、ボランティア受け入れなども今年度は行った。	町内会に加入し、4階までの複合福祉施設が一つの班として運営されており、総会にも参加し、職員2人が消防団員として活躍している。中学校の職場体験を受け入れ、「ホームについてよくわかった」との感想文がよせられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の実施や近隣の学生ボランティアとの交流も行う事が出来た。不定期となったが、地域版の施設たよりを通じ、認知症の理解や支援の方法等地域へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入居者様の状況、ホームでの生活の様子などを報告している。また、地域行事、昔からの習慣、生活上のアドバイスなど、情報や、助言をたくさん、頂き、出向いたり、活用させて頂いている。	地区長、民生委員、地域包括職員、家族、職員で構成し、偶数月に開催されている。ホームからの報告や、地域の情報が提供され、意見交換の場にもなっている。「はちまんの風便り」をもっと読みやすいように文字を大きくしてほしいとの要望があり、改善した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出等不明な点はその都度問い合わせし助言をいただいている。市主催の研修に積極的に参加している。事故報告は速やかにこなしている。	各種届出に関する事や事故対応等について相談し、助言を得ている。市主催の研修会にも参加し、交流している。今後、事業所として日頃からの取り組みに関して理解を深めるように、「はちまんの風便り」を届ける事にした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。エレベーターも暗証キーなどの設置はないため、所在の確認や1階事務所とも連携し利用者の安全を図っている。	施錠は21時～6時までとしている。身体拘束に関しての研修会は年1回開催している。転倒リスクの強い利用者など困難事例についてユニット会議で検討し、家族の協力も得て、拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人の入職時オリエンテーションでも行うが、内部研修でも虐待や身体拘束に関しての研修をおこなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ひだまりユニットでは成年後見制度を利用しているケースがあり知識として共有できている。日常生活自立支援事業に関しては、ホーム内で生活支援できることもあり、後見制度とのちがいについての理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、口頭での説明とともに、事前に書類を送り目を通した上で、不明な点がないか確認している。改定などあった場合は、文書を作成、郵送、説明し、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けているが、今のところ意見箱への投書はない。面会の際は、ご家族と話すように努めており、また、家族会を開催、その際に、ご家族のみで話せる時間を設け、その中で出た話しは、管理者・職員で共有、運営・日々のケア等に活かして行くようにしている。	自主的に家族会を結成し、会長を中心に諸行事に合わせて、年4回開催している。事業所への要望や意見を表し、家族同志の交流が盛んである。利用者の食事メニューを知りたいとの要望があり、「便り」にメニューの写真を載せ、知らせた。交流の様子や日々の利用者の写真が好評で希望者に送るようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議は2カ月に一回、ユニット会議は毎月実施し、職員からの意見を出してもらっている。	5委員会(事故防止・感染防止・苦情解決・高齢者虐待 防止)と、「食事」「排泄・入浴」など職員がそれぞれ担当し、毎月ユニット会議で話し合っている。冬場の早番出勤時間の変更について提案があり、これまでの7時を7時半に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り、働きやすいよう、休日の希望が叶うよう、またシフトのバランスに偏りがでないよう配慮している。年に2回、一人一人と面談を行い、本人の思いや、考えなどを聞き、働きやすい職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育はその方のスキルに合わせ計画している。主になる指導者を決め、継続した指導が出来るように配慮している。外部研修は、各職員に知らせ、希望する研修、または本人に望ましい研修を提案し、行く機会を設けるようにしている。内部研修は、必須の内容については実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への入会はあるが、シフト上の都合で参加が難しかった。研修会や交流会の参加機会がなかった。今後は積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言動や表情から、不安や混乱を利用者の目線にたち心情を知る努力をしている。本人様が住まわれているところに訪問し、ケアマネ、御家族、職員より前情報を頂き本人様が安心できるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の思いや要望をしっかりと聞き取り、スタッフと共有するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居直後は環境変化の影響をできるだけ避けるために必要とされる支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業等にて出来る事を行なって頂き、一緒に行なう関係性を持ちながら共に生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報共有し、必要な支援を一緒に考え実践に活かしている。面会時は日々の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室、買い物をしていた場所にお連れしている方もいる。	行きつけの美容室や理容室、コンビニへの買い物などの外出支援や、馴染みの場所の大崎八幡宮周辺の散歩を支援している。家族や友人、知人の面会が毎日のようにあり、面会し易い環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性など考慮し、席替えや居場所作りなど環境作りをしている。また、職員が仲介に入り利用者同士が関わり合いを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先への情報の提供、また、退居後に他の入居者の方たちとともに面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で利用者の言動や表情から、不安や混乱を利用者の目線にたち心情を知る努力をしている。	利用者、家族からこれまでの生活の様子や希望を聞いて、嫌な事や好まない事は避けるようにしている。得意とするものを取り上げ、意欲を引き出すように努めている。表現できない利用者には選択肢を設けて選んでもらう。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族の思いや要望をしっかり聞き取り、職員と共有するようにしている。また、ご家族よりこれまでのサービス利用の情報を得、その方のこれまでの状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、申し送り等で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族と話し合う場を設けている。職員間では日々の申し送りや会議にて話し合いを行い介護計画へ反映している。	日々のケース記録に書き込まれてあるケアの状況をユニット会議で話し合い、モニタリング、ケアプランの確認、再アセスメントを行い、3ヶ月毎に利用者、家族と話し合い、確認・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や申し送りなどで情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の支援力は個々に違うため、その都度必要な支援を話し合っ、可能な限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある神社へのお参り、近隣スーパー買い物等への支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を伺いながら、かかりつけ医との医療継続を希望する方には受診支援をしている。	往診医を利用する人もいるが、ほとんどの利用者は以前からのかかりつけ医で、家族の協力を得る場合もあるが、基本は職員が受診支援をしている。「受診・往診記録」用紙に受診結果を記録し、家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態に留意し、変化がある時は常に看護職(管理者)に相談できるようになっている。必要時医療機関との連携や速やかな受診行動がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もこまめに、ご家族、病院関係者と連携をとるようにし、入院中の状態把握に努め、退院時の受け入れ等も含め、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関わる指針について文書作成、説明、同意を書面にて取り交わしている。また、終末期の対応について、状況の変化に応じて、家族、医師との話し合いを行い、ホームで出来るケアについての説明を、都度行っている。	看取り介護指針を作成し、説明・同意を得ている。終末期の対応は「ホームでの看取りについて」と職員が対応すべき状況を記した「ターミナルステージにおける症状」をもとに、管理者(看護師)を講師に研修も行っている。昨年数人の看取りを経験し、職員の振り返りやメンタル面でのフォローも行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全員が受講するようにしているが、今年度は3月に予定されている。今後も定期的に、急変や事故発生時に備えて、訓練を行って行きたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成しており日中、夜間想定避難訓練を年2回実施している。緊急時は法人内で協力体制が出来ている。非常用食料、備品等は施設全体で備蓄している。	日中・夜間想定訓練を年2回実施した。運営推進会議で火災時のDVDをみて学習した。夜間は「はちまんの風」と書いた蛍光塗料のタオルを利用者につける事や各部屋に歩行可や車イスの表示をつける等の対応をしている。地域住民参加の夜間想定訓練は実施していない。	夜間想定訓練に地域住民の参加協力が得られるような取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、必ず了解を得てから入るようにしている。支援時にはさせていただいてよいかという問かけ、声のトーンに配慮しながら対応している。	呼び方は利用者、家族の希望で決めている。嫌な事は避けて一人ひとりを尊重した言葉かけや対応をしている。接遇についても具体的事例に基づいて学習している。利用者のテーブルの座る位置や高さ、距離も配慮して決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのか？希望を聞いたり、伝えられない方には、選択肢が提供できるものは、準備し選んでもらうなどを意識しながら関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務としてこなすのではなく、その時々の入居者の気持ちや状況に応じ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が満足できる身だしなみになるように支援している。行事、外出の際女性の方は化粧等も楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の内容を栄養士に年二回相談し助言をもらっている。献立に捉われず、利用者の希望に合わせて変更している。残食はほとんどみられていない。食事準備、片付けは一緒に行なっている。	献立や調理は職員が交代で行っており、法人の管理栄養士に相談助言を得ている。誕生会や行事食は利用者の希望を取り入れている。利用者と職員と一緒に味付けや盛り付け、後片付けをし、同じ物を和やかな雰囲気食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分の摂取量をチェックし確保できるように支援している。体調不良などにより、食事量が少ない方には代替え品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしっかりと行っている。就寝時は義歯を洗浄剤につけ清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて、個々の排泄パターンを把握し早めの声掛けにてトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表に基づいて排泄パターンを把握し、早めに声がけ誘導を行っている。夜間オムツ使用しても、日中布パンツ・リハパンツに替えたりして排泄の自立に向けて努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く使用したり、オリゴなどの使用で出来るだけ自然排便を心掛けている。トイレ時腹部マッサージを行ったり、腹圧をかけて頂けるような声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎月月替わりのお風呂を提供し楽しんで頂けるような工夫をしている。それぞれへの入浴誘導を工夫し、入浴したいタイミングにあわせて行っている。	利用者の入浴回数は基本は週2～3回だが、時間や曜日は希望にそって対応している。湯加減は好みで調整し、一人づつ入れ替えている。12月は「柚子湯」、2月は「大根の湯」などと効能も記入し、月替わりの湯を楽しんでいる。入浴拒否の方には「体重を量ろうね」と誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も疲労状態にあわせ、休息をとってもらったり安眠のために、晩酌(ノンアル)の提供をしている。居室内の温度、湿度を管理し安眠できるような環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がすぐわかるように説明書をファイルしている。使用開始時には看護師より目的・薬剤名・用法・注意点について伝えている。服薬時は日にち等の復唱確認、飲み込むことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族への聞き取りにて、それぞれの情報を集約している。個々に散歩、縫い物、将棋等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	計画した外出以外にも個別に御家族の支援により外出出来ている方がいる。地域の人に協力をもらいながらの外出支援までは出来ていない。	年間計画に基づき、初詣や節分祭り、定義参り、紅葉狩りなどに出かけている。個人の希望でドライブや買い物、外食やお墓参りなど家族の協力を得て外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別立替金を準備し買い物に出かけ、支援しながら楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや、年賀状などは準備して出せるように支援している。公衆電話はないが、家族と話したいときは事務所から電話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような設えを意識している。壁への装飾は入居者の方と作ったものを毎月作成し飾っている。	リビングは南向きで日当たりが良く、明るい。床はクッションフロアで膝・腰への負担の軽減を考慮している。壁には利用者が書き初めで今年の目標を掲げたり、節分にちなんで鬼の顔を飾ってある。利用者はソファで編み物をするなど、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングをソファ等を利用しいくつかのコーナーに分け、落ち着ける場所を持てるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものが身近にあることの必要性についてお話し協力していただいている。本人が不安なく生活して頂けるような環境作りに努めている。	洗面台、クローゼット、天井吊り物干しが備え付けられ、トイレは1ユニットに3ヶ所で共用となっている。居室の照明は微調整出来るようにリモコンが付いている。家族の写真やサイドボードなど馴染みの物がある。リネン交換や掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示や掲示物など、生活の手がかりとなるものを出来るだけ配置し、自立に向けた支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100232		
法人名	社会福祉法人青葉福祉会		
事業所名	グループホーム はちまんの風 こもれび		
所在地	宮城県仙台市青葉区八幡4丁目7-6		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・由緒ある大崎八幡宮と龍寶寺に隣接し、自然の中で四季の移ろいや地域行事を身近に楽しむことができる。また複合施設であるという利点をいかし、共に行事に参加し交流を持つことが出来ている。アットホームな雰囲気の中で生活して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大崎八幡神社と龍寶寺に隣接した、自然豊かで見晴らしのよい高台にある。「はちまんの風」は開設2年目で4階建ての2階にある。八幡高齢者複合施設として5事業所(通所介護・居宅介護支援・ヘルパーST・グループホーム・ケアハウス)があり、地域にとってなくてはならない役割を担っている。事業所理念として「わたし達は一人ひとりの生きてきた歴史に触れ、その人らしく暮らす事を大切に、たくさんの方の笑顔に出会えるように支援していきます。」を掲げ、利用者の思いを汲んだケアに努めている。「はちまんの風便り」の地域版を作成し、町内に配布、中学校の職場体験を受け入れ、地域との交流も行われている。利用者の看取りに関して、「看取り指針」の他に「ターミナルステージにおける症状」を詳細に文書化しており、職員の学習も重視している。職員の研修参加や資格取得に向けて業務保障

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはちまんの風 ）「 ユニット名 こもれび 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は「尊厳と習慣を守る」となっている。その人を知るためには、生きてきた時代や地域の習慣など幅広く知ることであり、生活の中でできたりや行事を大切に生活の中に組み入れている。はちまんの風の独自の理念を作り実践につなげた。	「私たちは、一人ひとりの生きてきた歴史に触れ、その人らしく暮らす事を大切に、たくさんの笑顔に出会えるように支援していきます。」を事業所の理念に掲げ、職員はミーティングで確認している。利用者の思いや意向を尊重し、笑顔で接するように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設自体が、町内会の班となっており地域とのつながりを持っている。地域内の中学校からの、ボランティア受け入れなども今年度は行った。	町内会に加入し、4階までの複合福祉施設が一つの班として運営されており、総会にも参加し、職員2人が消防団員として活躍している。中学校の職場体験を受け入れ、「ホームについてよくわかった」との感想文がよせられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の実施や近隣の学生ボランティアとの交流も行う事が出来た。不定期となったが、地域版の施設たよりを通じ、認知症の理解や支援の方法等地域へ発信		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入居者様の状況、ホームでの生活の様子などを報告している。また、地域行事、昔からの習慣、生活上のアドバイスなど、情報や、助言をたくさん、頂き、出向いたり、活用させて頂いている。	地区長、民生委員、地域包括職員、家族、職員で構成し、偶数月に開催されている。ホームからの報告や、地域の情報が提供され、意見交換の場にもなっている。「はちまんの風便り」をもっと読みやすいように文字を大きくしてほしいとの要望があり、改善した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出等不明な点はその都度問い合わせし助言をいただいている。市主催の研修に積極的に参加している。事故報告は速やかに行なっている。	各種届出に関する事や事故対応等について相談し、助言を得ている。市主催の研修会にも参加し、交流している。今後、事業所として日頃からの取り組みに関して理解を深めるように、「はちまんの風便り」を届ける事にした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。エレベーターも暗証キーなどの設置はないため、所在の確認や1階事務所とも連携し利用者の安全を図っている。ただ、転倒繰り返している入居者様1名、本人の安全確保のために、車椅子に乗っている際は、本人の負担にならぬよう、配慮しながら、また、ご家族にも説明、了承を得た上でセンサーなどで対応している方がいる。	施錠は21時～6時までとしている。身体拘束に関しての研修会は年1回開催している。転倒リスクの強い利用者など困難事例についてユニット会議で検討し、家族の協力も得て、拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の入職時オリエンテーションでも行うが、内部研修でも虐待や身体拘束に関しての研修をおこなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こもればユニットでは成年後見制度は、利用している方はいない。日常生活自立支援事業に関しては、ホーム内で生活支援できることもあり、後見制度とのちがいについての理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、口頭での説明とともに、事前に書類を送り目を通した上で、不明な点がないか確認している。改定などあった場合は、文書を作成、郵送、説明し、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けているが、今のところ意見箱への投書はない。面会の際は、ご家族と話すように努めており、また、家族会を開催、その際に、ご家族のみで話せる時間を設け、その中で出た話しは、管理者・職員で共有、運営・日々のケア等に活かして行くようにしている。	自主的に家族会を結成し、会長を中心に諸行事に合わせて、年4回開催している。事業所への要望や意見を表し、家族同志の交流が盛んである。利用者の食事メニューを知りたいとの要望があり、「便り」にメニューの写真を載せ、知らせした。交流の様子や日々の利用者の写真が好評で希望者に送るようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議は2カ月に一回、ユニット会議は毎月実施し、職員からの意見を出してもらっている。	5委員会(事故防止・感染防止・苦情解決・高齢者虐待防止)と、「食事」「排泄・入浴」など職員がそれぞれ担当し、毎月ユニット会議で話し合っている。冬場の早番出勤時間の変更について提案があり、これまでの7時を7時半に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り、働きやすいよう、休日の希望が叶うよう、またシフトのバランスに偏りがでないよう配慮している。年に2回、一人一人と面談を行い、本人の思いや、考えなどを聞き、働きやすい職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育はその方のスキルに合わせ計画している。主になる指導者を決め、継続した指導が出来るように配慮している。外部研修は、各職員に知らせ、希望する研修、または本人に望ましい研修を提案し、行く機会を設けるようにしている。内部研修は、必須の内容については実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への入会をしている。研修会や交流会の案内は頂いているが、シフト上の都合で参加が難しかった。今後は積極的に関わって行きたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言動や表情から、不安や混乱を利用者の目線にたち心情を知る努力をしている。本人様が住まわれているところに訪問し、ケアマネ、御家族、職員より前情報を頂き本人様が安心できるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族の思い、願い、困っていることなどをしっかり聞き取り、職員と情報を共有し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居直後は、環境変化の影響をできるだけ避けるため、職員と情報の共有を図りながら、支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業等にて出来る事を行なって頂き、一緒に行なう関係性を持ちながら共に生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し、必要な支援と一緒に考え、実践に活かしている。面会時は日々の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容所にお連れしている方もいる。	行きつけの美容室や理容室、コンビニへの買い物などの外出支援や、馴染みの場所の大崎八幡宮周辺の散歩を支援している。家族や友人、知人の面会が毎日のようにあり、面会し易い環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性など考慮し、席替えや居場所作りなど環境作りをしている。時には、職員が間に入り、橋渡し役となり孤立することないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先への情報の提供、また、退居後に他の入居者の方たちとともに面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、利用者の言動や表情から、不安や混乱を利用者の目線に立ち、心情を知る努力をしている。	利用者、家族からこれまでの生活の様子や希望を聞いて、嫌な事や好まない事は避けるようにしている。得意とするものを取り上げ、意欲を引き出すように努めている。表現できない利用者には選択肢を設けて選んでもらう。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族の思いや要望をしっかりと聞き取り、職員と共有するようにしている。また、ご家族よりこれまでのサービス利用の情報を得、その方のこれまでの状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、申し送り時などで、職員同士、情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを利用し、個々の入居者様について話し合う機会を設けている。また、ご家族とも話し合う場を設け、本人、ご家族様の意向を取り入れながら、作成するようにしている。	日々のケース記録に書き込まれてあるケアの状況をユニット会議で話し合い、モニタリング、ケアプランの確認、再アセスメントを行い、3ヶ月毎に利用者、家族と話し合い、確認・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や申し送りなどで情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の支援力は個々に違うため、その都度必要な支援を話し合っ、可能な限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある神社へのお参り。近隣スーパーへの買い物などの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を伺いながら、かかりつけ医との医療継続を希望する方には受診支援をしている。	往診医を利用する人もいるが、ほとんどの利用者は以前からのかかりつけ医で、家族の協力を得る場合もあるが、基本は職員が受診支援をしている。「受診・往診記録」用紙に受診結果を記録し、家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態に留意し、変化がある時は常に看護職(管理者)に相談できるようになっている。必要時医療機関との連携や速やかな受診行動がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中もこまめに、ご家族、病院関係者と連携をとるようにし、入院中の状態把握に努め、退院時の受け入れ等も含め、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関わる指針について文書作成、説明、同意を書面にて取り交わしている。また、終末期の対応について、状況の変化に応じて、家族、医師との話し合いを行い、ホームで出来るケアについての説明を、都度行っている。	看取り介護指針を作成し、説明・同意を得ている。終末期の対応は「ホームでの看取りについて」と職員が対応すべき状況を記した「ターミナルステージにおける症状」をもとに、管理者(看護師)を講師に研修も行っている。昨年数人の看取りを経験し、職員の振り返りやメンタル面でのフォローも行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全員が受講するようにしているが、今年度は3月に予定されている。今後も定期的に、急変や事故発生時に備えて、訓練を行って行きたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成しており、日中・夜間それぞれの避難訓練を、年2回実施している。緊急時は、法人内で協力体制が出来ている。非常用食料、備品等は施設全体で備蓄している。	日中・夜間想定訓練を年2回実施した。運営推進会議で火災時のDVDをみて学習した。夜間は「はちまんの風」と書いた蛍光塗料のタオルを利用者につける事や各部屋に歩行可や車イスの表示をつける等の対応をしている。地域住民参加の夜間想定訓練は実施していない。	夜間想定訓練に地域住民の参加協力が得られるような取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、必ず了解を得てから入るようにしている。支援時にはさせていただいてよいかという問いかけ、声のトーンに配慮しながら対応している。	呼び方は利用者、家族の希望で決めている。嫌な事は避けて一人ひとりを尊重した言葉かけや対応をしている。接遇についても具体的事例に基づいて学習している。利用者のテーブルの座る位置や高さ、距離も配慮して決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのか？希望を聞いたり、伝えられない方には、選択肢が提供できるものは、準備し選んでもらうなどを意識しながら関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務としてこなすのではなく、その時々の入居者の気持ちや状況に応じ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が満足できる身だしなみになるように支援している。行事、外出の際などは、お化粧なども楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の内容を栄養士に、年2回相談し助言をもらっている。献立にとらわれず、入居者の希望に合わせて変更している。残食はほとんど見られていない。調理・盛付け・あと片付けなどは、入居者様と一緒にやっている。	献立や調理は職員が交代で行っており、法人の管理栄養士に相談助言を得ている。誕生会や行事食は利用者の希望を取り入れている。利用者と職員と一緒に味付けや盛り付け、後片付けをし、同じ物を和やかな雰囲気の中で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分の摂取量をチェックし確保できるように支援している。体調不良等により、食事量が少ない方には、代替品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしっかりと行っている。就寝前に、義歯を洗浄剤に付け清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々の排泄パターンを把握し、早めの声がけによりトイレでの排泄が出来るよう、支援している。	排泄チェック表に基づいて排泄パターンを把握し、早めに声がけ誘導を行っている。夜間オムツ使用しても、日中布パンツ・リハパンツに替えたりして排泄の自立に向けて努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く使用したり、オリゴなどの使用で出来るだけ自然排便を心掛けている。トイレ時、腹部マッサージを行ったり、腹圧をかけられるような声がけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれへの入浴誘導を工夫し、入浴したいタイミングにあわせて行っている。毎月、月替わりのお風呂を提供し、楽しんで頂けるような工夫をしている。	利用者の入浴回数は基本は週2～3回だが、時間や曜日は希望にそって対応している。湯加減は好みで調整し、一人ずつ入れ替えている。12月は「柚子湯」、2月は「大根の湯」などと効能も記入し、月替わりの湯を楽しんでいる。入浴拒否の方には「体重を量ろうね」と誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も疲労状態にあわせ、休息をとってもらったり安眠のために、晩酌(梅酒)の提供や足浴など安眠を促す工夫をしている。居室内の温度、湿度を管理し安眠できるような環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬しているものがすぐわかるように説明書をファイルしている。使用開始時には目的・薬剤名・用法・注意点について伝えている。服薬時は、名前・日にち等の復唱確認、飲み込むことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族への聞き取り、それぞれの情報を集約している。本人の好きな縫い物や、貼り絵、ゲームなどを提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	計画した外出レク以外にも個別に、ご家族の支援により外出している方もいる。地域の人々と協力して頂きながらの外出支援までは出来ていない。	年間計画に基づき、初詣や節分祭り、定義参り、紅葉狩りなどに出かけている。個人の希望でドライブや買い物、外食やお墓参りなど家族の協力を得て外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別立て替え金を準備し、買い物に出かけ、支援しながら楽しんでもらっている。お金を持っていないと不安な方には御家族了解の上、適正な金額を持っていただいている。御家族に定期的に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや、年賀状などは準備して出せるように支援している。公衆電話はないが、家族と話したいときは事務所から電話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような設えを意識している。壁への装飾は入居者の方と作ったものを毎月作成し飾っている。	リビングは南向きで日当たりが良く、明るい。床はクッションフロアで膝・腰への負担の軽減を考慮している。壁には利用者が書き初めで今年の目標を掲げたり、節分にちなんで鬼の顔を飾ってある。利用者はソファで編み物をするなど、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングもいくつかのコーナーに分け、落ち着ける場所を持てるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものが身近にあることの必要性についてお話し協力していただいている。本人が不安なく生活ができるような環境作りに努めている。	洗面台、クローゼット、天井吊り物干しが備え付けられ、トイレは1ユニットに3ヶ所で共用となっている。居室の照明は微調整出来るようにリモコンが付いている。家族の写真やサイドボードなど馴染みの物がある。リネン交換や掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示や掲示物など、生活の手がかりとなるものを出来るだけ配置し、自立に向けた支援をしている。		